

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
「知性・感性・耐性」を自らたかめる 生徒の育成	① 将来へ向けた確かな学力を身につけさせる。 ② 道徳教育等により、豊かな心を育てる。 ③ 生徒自身のたくましい自立と豊かな自律を促す。 ④ 安心安全で生徒が明るく活動する環境を作る。 ⑤ 業務を改善し、教職員の資質・能力を高める。

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 将来へ向けた確かな学力を身につけさせる。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●志を高める教育	学びを支える目的意識や自己実現に向けた意欲が高まっているか。	・将来の夢や目標を持つ生徒が80%以上をめざす。	・道徳、学級活動、学年集会等で「夢をもって生きる大切さ」、「将来の自分らしい生き方」、「将来の日本や社会の姿と自分の生き方」などの題材の授業や講話を行う。 ・自分の考えをペアワークにより引き出し、互いの将来に対して意見を交換させる。 ・上級学校の調べ学習や高校の先輩方を学校に呼び、先輩方に学ぶ機会を与え、目的意識の高揚につなげる。
教育活動	●学力の向上	授業と家庭学習で基礎的な知識・技能を定着させ、思考力や表現力を伸ばす。	・家庭学習を毎日1時間半以上する割合80%以上をめざす。 ・県学習状況調査12月調査の正答率が県平均を上回ることをめざす。	・家庭学習の重要性を学活や学年集会、保護者会、授業中などの機会を捉えて的確に伝える。 ・学習文化委員会と協力して自主学習ノートのコンテストをする。 ・生徒が自主学習ノートにける時間、内容から実態を把握し、個に応じた学習課題を提示する。 ・4月調査の結果の分析を教科部会や学年会でおこない、教科と学年の双方から課題解決の取組をする。

② 道徳教育等により、豊かな心を育てる。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	「感性」を高める教育は実践できているか。	・明るく元気なあいさつができる生徒80%以上をめざす。 ・道徳の授業が役に立っているという生徒80%以上を維持する。	・生徒会活動とリンクして朝のあいさつ運動を行い、明るく元気のよい挨拶で一日をスタートさせるようにする。 ・道徳授業の年間計画の見直し、TTや輪番による授業システムの工夫、「伝え合う」場面の工夫、適切な見取りによる評価を行う。 ・朝の会・帰りの会、集会等で心を耕し、豊かな感性を育てる話を行い、道徳の授業との連携を図る。
教育活動	●いじめ問題への対応	学校、学年、学級はいじめのない生活の場づくりを行っているか。	学校がいじめ防止に取り組んでいると思う生徒90%以上を維持する。	・いじめ防止の視点を持った道徳の授業やグループエンカウンターを取り入れた学活を行い、学級の絆づくりと規律づくりを進める。 ・生徒指導部会や協議会で情報の共有化を図り、毎週の生活アンケートや学活ノートを活用し未然防止及び早期発見に努める。 ・SCやSSWなどの支援を受けた職員研修やにじいるCAPの研修を保護者・生徒・職員が受け、お互いを認める関係づくりや、教育相談の充実を図る。 ・学校行事や生徒会活動を、より生徒主体で計画運営させ、自律の心を育て、生徒自らがいじめ防止への取り組みができるようにする。 ・身近にある人権問題を新聞などを活用して授業で取り上げ、話し合い活動を行い、解決策を自分のこととして考えさせる。 ・いじめ兆候があれば、管理職・生徒指導主事に速やかに報告し、組織的に事実確認・指導・謝罪・生徒のケア・未然防止への取組を行う。

③ 生徒自身のたくましい自立と豊かな自律を促す。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	「耐性」を高める教育は実践できているか。	・難しいことやつらいことに粘り強く取り組んでいる生徒80%以上をめざす。 ・自分で正しい判断をしている生徒80%以上をめざす。 ・不登校生徒の出席率を高める。	・学年の日常生活の中で、意識して行動する場面を増やす。特に、身だしなみの徹底、自問清掃の強化、時間を守る、あいさつをする、学習習慣の定着、に力を入れる。 ・部活動を、「忍耐力や向上心を培い、達成感や成就感を味わう」ことのできる教育的意義をもつ活動ととらえ、全職員で取り組む。 ・週間アンケートを活用して、普段善い行いをしている生徒の把握と称賛に努め、自己認知につなげる。 ・不登校防止のチェックリストを活用しつつ、家庭やSSWとの連携を促進する。
教育活動	○生徒会活動の活性化	生徒会活動の中で、生徒自らが、生活や能力を高めようとしているか。	生徒会活動に積極的に取り組み、学校生活がよくなっている生徒70%をめざす。	・生徒主体の生徒会活動になるよう、各部委員会の担当の教員を中心に適切にサポートする。毎月の計画を綿密に立て、無理のないプランになっているかどうか、各担当教員間で連携して調整をする。 ・生徒会スローガン「KITA中旋風」の下、誰もが充実した学校生活を送ることができるような目標や決まりをつくり、実現させる。 ・校外活動やボランティア活動に参加させ、社会を知り、地域貢献につなげる。
教育活動	●健康・体づくり	自分の健康・体づくりについて意識を高めることができているか。	・スポーツテストの結果から自分の体力や運動能力を理解させ、向上させる。 ・生活習慣等の改善を促し、病気やけがを減少させる。	・生徒自身にスポーツテストの結果を分析させる。 ・自己に足りない体力を向上させるための「体づくり運動」を理解させるための授業を行う。

④ 安心安全で生徒が明るく活動する環境を作る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○安全安心づくり	家を出て再び帰り着くまでの生徒の安全確保はできているか。	・登下校時の交通ルール・マナー、学校生活のルール・マナーを守らせ、事故や苦情をなくす。	・毎月1日、20日の、朝の交通指導を確実に実行し、振り返りを共有する。 ・施設安全点検を毎月実施し、点検後の修繕の早期対応を図る。 ・定期的な自転車の安全指導および自転車点検を実施する。
学校運営	○家庭・地域や小学校との連携	家庭や地域とのつながりを持ち、小学校と連携した教育を行っているか。	・北茂安中学校に安心して通わせているという保護者90%以上をめざす。 ・小学校の授業参観や交流を推進する。	・各種の便りの中で、生徒の頑張りや学級・学年・学校の状況を積極的に発信する。 ・夏季休業中に小学6年生を対象に体験授業と部活動体験を実施する。 ・職員の研修(教育相談等)を合同で実施する。 ・小学6年生と保護者向けに中学校説明会を実施する。

⑤ 業務を改善し、教職員の資質・能力を高める。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	●業務改革・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化と勤務時間の適正化の推進ができたか。	・各分掌間の連携及び情報共有を図るとともに会議時間の1割削減を目指す。 ・教職員の超過勤務時間を、昨年度より1割削減する。	・校務シェアやホワイトボードを利用し、同一時間に集合しなくても情報を共有できるようにする。 ・教材の共有化をすすめる。 ・毎日の業務記録を点検し、管理職とともに超過勤務を減らす方策を個々に示させる。
学校運営	○教職員の資質能力の向上	ベテラン教師、ミドルリーダー、若手教師がそれぞれの役割を自覚して、教育活動に取り組む資質能力を向上させているか。	・同僚から学ぶ意識や同僚教師を育てる意識をもって教育活動をしている教師を90%以上にする。	・校内研究での全職員が持ちまわりで授業を行い、互いに研修を深める。 ・教育センター研修や教育事務所主催の研修への積極的参加を促すとともに、学んだことやこれまでの経験を伝え合う機会を設定する。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
	該当なし			

●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目